
視線

井ノ上岬

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

視線

【コード】

N2450U

【作者名】

井ノ上岬

【あらすじ】

私と女、それぞれの視線の先。果て。

天井を見るともなしに見つめるのであった。そのあいだを遮るように、笑んだ女の顔があつたが、それにはさほど魅力を感じない。彼女が私にまたがつている故にも、興味がない。しなやかな己の肢体を惜しげもなく私の前で晒しているが、妖艶とは云いがたい。

女の手は私の首に伸びている。細く、白い腕の先、両のてのひらが私の首をつかんでいるのだ。女はじゃれつくようにして笑っているのに、私は何ら表情を変えず天井ばかりを見ている。少なくともこの現状に於いては、浪漫やエロチカといった雰囲気はない。或いは快樂だという者もいるのだろうが、私には寧ろそれよりずっと性質の悪いもののように感じられる。それらをただ情と呼んだり心と呼んだり、はたまた愛と呼んだり、一言で片づけてしまおうとするには腹の立つほど物足りなさを覚える。

喉元へあてがわれた指先に、くつと力がいいるのを見つめていた。だが、不思議と苦しくはない。たださえ折れそうなくらいに細い指が、本当に折れてしまうのではないかと思うほど反っているというのに、私はそれに何の悶々とした気が起こらない。少し不快な気もする。しかし、ただそれだけのことなのだ。

だらしなく開いた私の口から、つと一滴の唾液がこぼれた。

女は手をはなそうとしない。笑みも絶やさない。

私はじつとして動かず、見るともなしに天井を見つめている。

その姿が一層、女を喜ばせた。

ああ、殺意のないことが救いかも知れない。

そうして私は、そのさまを傍で見つめている。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2450u/>

視線

2011年10月9日06時09分発行